

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成21年9月3日(2009.9.3)

【公開番号】特開2009-163412(P2009-163412A)

【公開日】平成21年7月23日(2009.7.23)

【年通号数】公開・登録公報2009-029

【出願番号】特願2007-341021(P2007-341021)

【国際特許分類】

G 06 Q 10/00 (2006.01)

【F I】

G 06 F 17/60 174

G 06 F 19/00 310 H

【手続補正書】

【提出日】平成21年6月30日(2009.6.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

値を格納する領域を少なくとも1つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置であって、

前記電子データを用いて表示装置に表示された1の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段と、

入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、前記領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段と、

前記1の世代、および前記世代演算入力手段により入力された他の世代における、前記領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、前記電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、前記世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、前記表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段と

を備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】

前記電子データは、帳票印刷データから変換されたデータであって、前記表示装置へ帳票を表示可能な形式のデータであり、

前記領域は、前記電子データを用いて前記表示装置へ表示された帳票における座標位置により特定される領域であることを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記1の世代、および前記世代演算入力手段により入力された他の世代における、前記領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、前記電子データに含まれるそれぞれの値を抽出する抽出手段と、

前記抽出手段により抽出されたそれぞれの値を用いて、前記世代演算入力手段により入力された演算種別に応じて演算を行う演算手段を有し、

前記表示制御手段は、前記演算手段による演算の結果を、前記表示装置へ表示させる制御を行うことを特徴とする請求項1または2に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記表示制御手段は、前記表示装置に表示された 1 の世代の帳票の、前記領域入力手段により入力された領域の近傍に、前記演算の結果を表示させることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

**【請求項 5】**

前記表示制御手段は、前記世代演算入力手段による入力の後、ユーザからカーソルによる指示がされた場合に、前記表示装置へ前記演算の結果を表示させることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報処理装置。

**【請求項 6】**

値を格納する領域を少なくとも 1 つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置における情報処理方法であって、

前記電子データを用いて表示装置に表示された 1 の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力ステップと、

入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、前記領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力ステップと、

前記 1 の世代、および前記世代演算入力ステップにより入力された他の世代における、前記領域入力ステップにより入力された領域に格納される値であって、前記電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、前記世代演算入力ステップにより入力された演算種別に応じた演算の結果を、前記表示装置へ表示させる制御を行う表示制御ステップと

を備えたことを特徴とする情報処理方法。

**【請求項 7】**

クライアント端末と、値を格納する領域を少なくとも 1 つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置とが通信可能な情報処理システムであって、

前記電子データを用いて表示装置に表示された 1 の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段と、

入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、前記領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段と、

前記 1 の世代、および前記世代演算入力手段により入力された他の世代における、前記領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、前記電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、前記世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、前記表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段と

を備えたことを特徴とする情報処理システム。

**【請求項 8】**

値を格納する領域を少なくとも 1 つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置において実行可能なプログラムであって、

前記電子データを用いて表示装置に表示された 1 の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段、

入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、前記領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段、

前記 1 の世代、および前記世代演算入力手段により入力された他の世代における、前記領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、前記電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、前記世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、前記表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段

として前記情報処理装置を機能させることを特徴とするプログラム。

**【請求項 9】**

請求項 8 に記載のプログラムをコンピュータ読み取り可能に記憶した記録媒体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項 1 に記載の発明は、値を格納する領域を少なくとも 1 つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置であって、電子データを用いて表示装置に表示された 1 の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段と、入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段と、1 の世代、および世代演算入力手段により入力された他の世代における、領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段とを備えたことを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の情報処理装置において、電子データは、帳票印刷データから変換されたデータであって、表示装置へ帳票を表示可能な形式のデータであり、領域は、電子データを用いて表示装置へ表示された帳票における座標位置により特定される領域であることを特徴とする。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 または 2 に記載の情報処理装置において、1 の世代、および世代演算入力手段により入力された他の世代における、領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、電子データに含まれるそれぞれの値を抽出する抽出手段と、抽出手段により抽出されたそれぞれの値を用いて、世代演算入力手段により入力された演算種別に応じて演算を行う演算手段を有し、表示制御手段は、演算手段による演算の結果を、表示装置へ表示させる制御を行うことを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置において、表示制御手段は、表示装置に表示された 1 の世代の帳票の、領域入力手段により入力された領域の近傍に、演算の結果を表示させることを特徴とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

請求項5において、請求項1または2に記載の情報処理装置において、表示制御手段は、世代演算入力手段による入力の後、ユーザからカーソルによる指示がされた場合に、表示装置へ演算の結果を表示させることを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項6に記載の発明は、値を格納する領域を少なくとも1つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置における情報処理方法であって、電子データを用いて表示装置に表示された1の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力ステップと、入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力ステップと、1の世代、および世代演算入力ステップにより入力された他の世代における、領域入力ステップにより入力された領域に格納される値であって、電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、世代演算入力ステップにより入力された演算種別に応じた演算の結果を、表示装置へ表示させる制御を行う表示制御ステップとを備えたことを特徴とする。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

請求項7に記載の発明は、クライアント端末と、値を格納する領域を少なくとも1つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置とが通信可能な情報処理システムであって、電子データを用いて表示装置に表示された1の世代の帳票に対するユーザの操作指示により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段と、入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段と、1の世代、および世代演算入力手段により入力された他の世代における、領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段とを備えたことを特徴とする。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

請求項8に記載の発明は、値を格納する領域を少なくとも1つ含む複数の世代を有する電子データの、世代間での演算を行う情報処理装置において実行可能なプログラムであって、電子データを用いて表示装置に表示された1の世代の帳票に対するユーザの操作指示

により選択される領域であって、演算可能な値が格納される領域を入力する入力手段、入力画面を介してユーザにより入力される、演算の対象となる他の世代を示す値と、領域入力手段により入力された領域に格納される各世代の値に対する演算種別とを入力する世代演算入力手段、1の世代、および世代演算入力手段により入力された他の世代における、領域入力手段により入力された領域に格納される値であって、電子データに含まれるそれぞれの値を用いて、世代演算入力手段により入力された演算種別に応じた演算の結果を、表示装置へ表示させる制御を行う表示制御手段として情報処理装置を機能させることを特徴とする。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

請求項9に記載の発明は、コンピュータ読み取り可能に記憶した記録媒体であって、請求項8に記載のプログラムを格納したこととする。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】削除

【補正の内容】